



2023年度 環境経営レポート



大和紙料株式会社



活動期間：2022年10月～2023年9月

2023年11月1日作成



エコアクション21[®]
認証番号0001773

◆目次

• 企業情報	3
• 地域コミュニケーション	4
• 組織図	5
• 環境経営方針	6
• 環境経営目標	7
• 環境活動計画の内容	8~9
• 環境経営目標の実績	10~12
• 取組結果の評価	13
• 環境関連法規の遵守状況	14
• 教育訓練実施状況	14
• 廃棄物関係許可取得状況	15~17
• SDGsの取り組み	18
• 代表者の評価と見直し・指示	18

1) 企業情報

《会社名》

大和紙料株式会社

《設立》

昭和24年6月（創業明治9年11月）

《資本金》

9千9百万円

《売上高》 2023年9月期

19,700,532千円

《代表者》

代表取締役 矢倉 得正

《環境管理責任者》

営業本部 部長 荒俣 朋文

《連絡先》

大阪府大阪市大正区三軒家東2-9-10 TEL:06-6551-2231 FAX:06-6551-2238

エコアクション21事務局 担当:齋藤 昭一

《認証登録の対象範囲と活動》

事業活動:古紙卸売業、再生パルプ製造業、産業廃棄物収集運搬業・中間処理業

登録組織名:大和紙料株式会社 本社部門 高槻事業部 鳥飼事業所 南港ヤード 東大阪事業所 京都事業所 東京事業所 神奈川事業所 北九州事業所 グリーンセービング福岡 唐津リサイクルセンター 平戸リサイクルセンター 熊本リサイクルセンター 名古屋営業所 鹿児島事業所 諫早リサイクルセンター

《事業規模》

2023年度(2022年10月~2023年9月)

※1 取扱量はバン積数量

事業所名	所在地	業種	敷地面積	従業員数	ヤード 扱い数量	車両台数
本社	大阪府大阪市大正区三軒家東2-9-10	古紙卸売業	3,896㎡	68名	38,776.0t	41台
高槻事業部	大阪府高槻市登町61-1	再生パルプ 製造業	5,008㎡	32名	8,437.1t	9台
鳥飼事業所	大阪府摂津市鳥飼西3-10-12	古紙卸売業	4,300㎡	12名	13,683.0t	18台
南港ヤード ※1	大阪府大阪市住之江区平林北2-9-129	古紙卸売業	2,330㎡	3名	35,367.0t	3台
東大阪事業所	大阪府東大阪市古箕輪1-18-6	古紙卸売業	2,200㎡	13名	21,797.0t	12台
京都事業所	京都府八幡市岩田六ノ坪59-1	古紙卸売業	2,200㎡	14名	16,615.0t	22台
東京事業所	埼玉県戸田市美女木8-12-2	古紙卸売業	2,300㎡	15名	10,684.0t	15台
神奈川事業所	神奈川県綾瀬市寺尾南1-5-1	古紙卸売業	1,760㎡	15名	15,706.0t	20台
北九州事業所	福岡県北九州市小倉北区西港町83-1	古紙卸売業	2,000㎡	22名	18,358.0t	26台
グリーンセービング福岡	福岡県糟屋郡新宮町大字立花口字猿渡404-2	古紙卸売業	2,500㎡	14名	11,325.0t	25台
唐津リサイクルセンター	佐賀県唐津市梨川内字河内山1079-106	古紙卸売業	13,444㎡	15名	11,041.0t	20台
平戸リサイクルセンター	長崎県平戸市田平町下寺免361-1	古紙卸売業	1,950㎡	11名	8,041.0t	12台
諫早リサイクルセンター	長崎県諫早市飯盛町開1611-1	古紙卸売業	415㎡	7名	4,420.0t	11台
熊本リサイクルセンター	熊本県熊本市東区御領6-3-50	古紙卸売業	2,645㎡	13名	10,724.0t	18台
名古屋営業所	名古屋市守山区瀬古3-902	古紙卸売業	12㎡	3名	1,842.0t	3台
鹿児島事業所	鹿児島市東開町12番地5	古紙卸売業	1,653㎡	12名	10,048.0t	12台
合計			48,198㎡	269名	236,864.1t	267台

※産業廃棄物処理量

	廃プラ	混合物	木くず	金属くず	ガラスくず	廃蛍光灯	合計
本社（収集運搬）	150.5t	562.2t	191.3t	52.5t	4.2t	0.3t	961.0t
グリーンセービング福岡（中間処理）	実績なし						
鹿児島事業所（中間処理）	15.1t						15.1t
積み替え保管の実績	廃プラスチック類	38.0t					38.0t
総合計							976.1t

2)地域コミュニケーション

大阪本社では、地域住民の方々との交流を深めるために、大阪市大正区役所が主催する体験型イベント「大正ものづくりフェスタ」に参加しています。8月5日(土)に開催され大正区内の企業とチームで文鎮づくりや空気入れゲームのブースにて地域住民とふれあいを行いました。

今後とも地域密着企業を目指して、地域との交流を深めていきます。

【エコぼすと】

古新聞・古雑誌・段ボールなどの古紙や空き缶のリサイクルを目的とした、無料の受け入れ回収できる施設です。

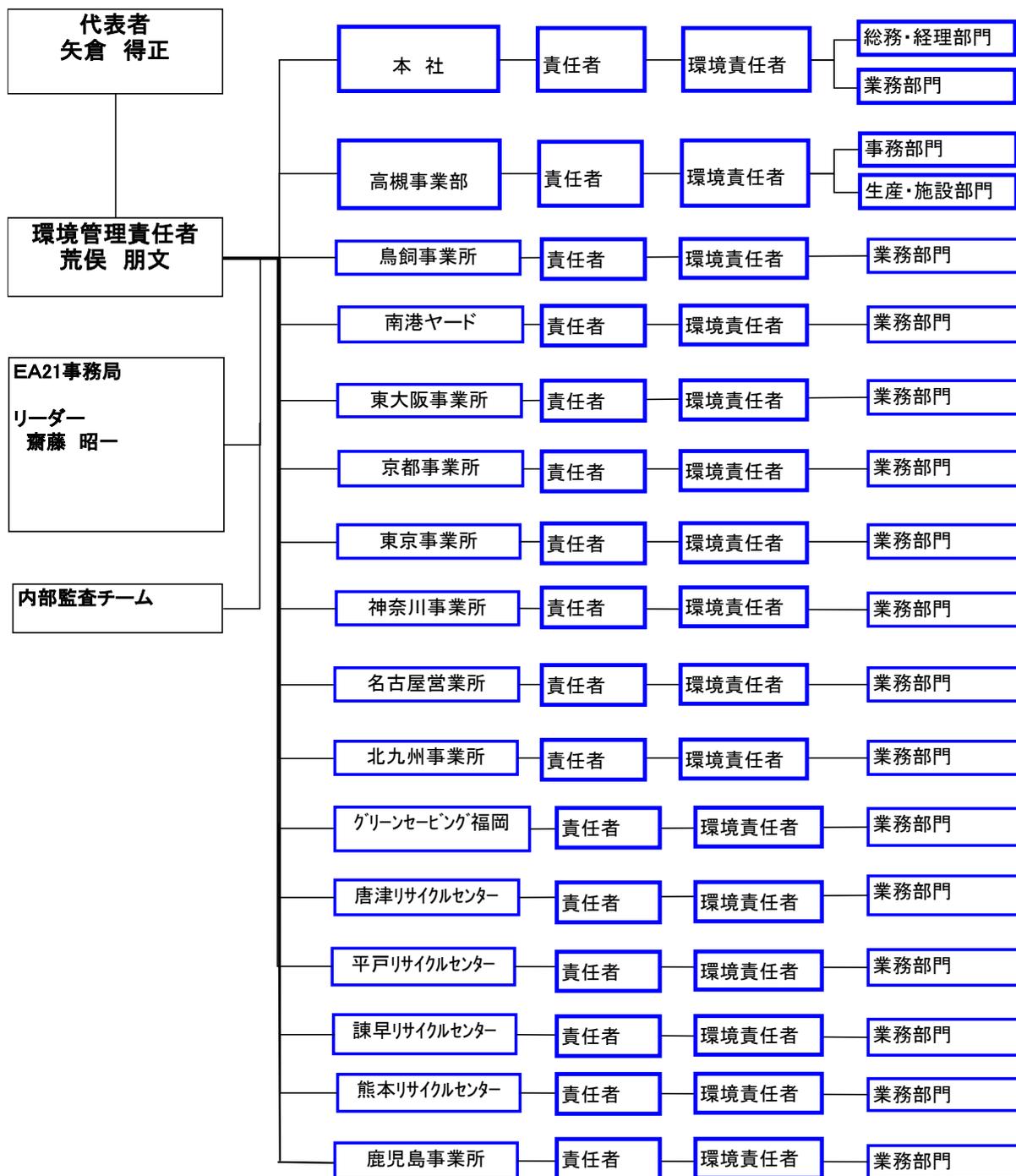
無料でいつでも利用していただけるため、受け入れ時間や場所など、今までいろいろな制約があった古紙回収のハードルを下げることができ、より気軽に古紙リサイクルに貢献できます。

エコぼすと
古紙無料受入

あなたの古紙が地球の未来を救う 📄



3) 組織図



		役割・責任・権限
代表者		環境経営に関する統括責任、環境方針の策定、環境管理責任者の任命及び環境経営システム実施及び管理に必要な資源等の準備、全体の評価と見直し、環境活動レポートの承認
環境管理責任者		環境経営システムの構築・管理、環境活動レポート・環境目標・環境活動計画の承認、代表者への報告、各種文書・記録の作成・承認、教育訓練の実施責任者、全従業員への周知
事務局		環境管理責任者の補佐、EA21認証に関する各種文書・記録類の取り纏め・整備・報告及び環境経営システムの運営・維持管理にかかる各種実務の担当、内部監査・教育訓練の実施
各事業所	責任者	事務局と連携し各事業所における環境活動全般を統括、教育訓練実施、環境活動の策定
	環境責任者	各事業所での環境活動の実施・維持管理、各種文書・記録の作成・管理
各部門従業員		策定された環境方針及び環境目標について必要な環境活動を実施、環境活動案の策定
内部監査チーム		内部監査の実施、教育訓練の実施、環境経営システムの検証

4) 環境経営方針

環 境 経 営 方 針

【環境経営理念】

大和紙料株式会社はその事業活動通じ、地域社会の皆様とともに持続可能な循環型社会の実現に向けて、全社員の一人一人が環境保全活動に取り組むことを誓います。

【基本方針】

1. 環境関連法規制の遵守

環境関連の法律・条例および当社が加盟する各種団体の規約、またその他一切の事業活動に関わる法規制を遵守し、自社を取り巻く環境の保全、改善に努めます。

2. 環境負荷の低減

- ・ 電気、ガス、水道、ガソリン／軽油などの省エネルギー活動を進めます。
- ・ 運搬車両のエコドライブの実施、低公害車への乗換えを進め、環境負荷の低減に努めます。
- ・ 事業活動において市中で排出される廃棄物のリサイクルを促進させることで廃棄物の減量化を進めるとともに、持続可能な社会の実現に貢献します。
- ・ 事業活動の中で消費される全ての物品について、再利用方法の考案、環境負荷の低い商品の導入を検討致します。

3. 地域社会

地域社会との関わりを重視し、地域住民に愛される企業として環境保全活動並びにリサイクル啓蒙活動を行います。

4. 環境経営の継続的改善

経営の課題とチャンスを確認し、環境目標を定め、環境マネジメントシステムの継続的な改善を実施いたします。

当社はこの環境経営方針を全社員および関連事業者に周知し、また自社のホームページ上にも掲載し、外部に公表いたします。

2022年10月1日 改定

大和紙料株式会社

代表取締役 **矢倉 得正**

5) 環境経営目標（2023年度及び中長期目標）

※2023年度:2022年10月～2023年9月 会計期間に準じる

項目	省資源	排水	二酸化炭素排出量		廃棄物	地域社会
			省エネ	省エネ		
目的	事務用紙使用量の削減	水道使用量の削減、水質汚濁負荷の排水量低減	電気エネルギーの削減	化石燃料使用量の削減	リサイクル率向上推進、生産効率の向上 製紙スラッジの排出量抑制	地域社会に密着した企業
2023年度末目標	2022年度を基準とし全社で用紙使用量1%の削減を行う。	2022年度を基準とし全社で水道使用量1%の削減を行う。	2022年度を基準とし全社で電気使用量及び化石燃料使用量1%の削減を行う。		2022年度を基準とし全社で廃棄物排出量1%の削減を行う。	事業活動等を通じ地域社会との交流を深める。
2024年度末目標	2023年度を基準とし全社で用紙使用量1%の削減を行う。	2023年度を基準とし全社で水道使用量1%の削減を行う。	2023年度を基準とし全社で電気使用量及び化石燃料使用量1%の削減を行う。		2023年度を基準とし全社で廃棄物排出量1%の削減を行う。	事業活動等を通じ地域社会との交流を深める。
2025年度末目標	2024年度を基準とし全社で用紙使用量1%の削減を行う。	2024年度を基準とし全社で水道使用量1%の削減を行う。	2024年度を基準とし全社で電気使用量及び化石燃料使用量1%の削減を行う。		2024年度を基準とし全社で廃棄物排出量1%の削減を行う。	事業活動等を通じ地域社会との交流を深める。

部門別数値目標

※CO2換算値を扱い数量による原単位方式とする

部門	年度	省資源	排水	二酸化炭素排出量	廃棄物
本社	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
高槻	2023年度	▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度		2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度		2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
鳥飼	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
南港	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
東大阪	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
京都	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
東京	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
神奈川	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
北九州	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
福岡	2023年度	2022年度 ▲1%	▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%		2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%		2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
唐津	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
平戸	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
諫早	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
熊本	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
名古屋	2023年度	2022年度 ▲1%	▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%		2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%		2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%
鹿児島	2023年度	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度 ▲1%	2022年度比 ▲1%
	2024年度	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度 ▲1%	2023年度比 ▲1%
	2025年度	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度 ▲1%	2024年度比 ▲1%

6)環境活動の内容

取組	具体的な実施手順	関連項目	部署
両面印刷の推奨	印刷枚数2枚以上の文書は可能な限り両面印刷を行う。	省資源	全部署
裏紙の活用	コピー機及びFAXの横に《回収BOX》を設置し、ミスコピー等を回収する。※回収した用紙は商品の古紙に混ぜリサイクルする。	省資源	全部署
PCFAXの利用	PC上の書類等をプリントアウトすることなく直接FAXを行い、無駄な印刷を削減する。	省資源	全部署
不要な紙は再生する	コピー機の横に回収箱を設置、使用済み紙類は当社でリサイクルする	省資源	全部署
グループウェアの導入	グループウェアを導入し可能な限り文書類を電子化し、コピー用紙使用量の削減を図る。	省資源	全部署
節水コマ	水道蛇口のパッキン(コマ)を節水タイプに取り替える	排水水	全部署
節水の呼びかけ	節水を呼びかける掲示を行い、従業員の環境活動に対する意識の向上を図る。	排水水	全部署
流水音発生器の取り付け	女性用トイレに流水音発生器を取り付け、節水を行う。	排水水	本社
排水の再利用	使用済み排水を、水と混ぜて再利用する	排水水	再生パルプ製造部門
節水の徹底	地下水汲上量の適量化・バルブ等の漏水点検・節水を呼びかける掲示を行う	排水水	再生パルプ製造部門
PC節電	30分以上離席するときはモニターの電源をoffにする。⇒PCで自動OFFに設定長時間の外出時及び退社時はPCの主電源をoffにする。	炭酸ガス省エネ	全部署
電力の不要時off	①食堂(休憩所)の空調を朝8時ON～17時30分OFFにする。②休日の前日、最後に退社する者は空調・照明・事務機器等の電源OFFを確認する。③生産現場において、休憩中は自動圧縮梱包機の主電源を落とし、待機電力を節約する。	炭酸ガス省エネ	全部署
クールビズ・ウォームビズ	冷暖房に頼りすぎず、できるだけ服装により調整を図る。来客等外部に対しても受付にて案内文を設置し、活動への理解を呼びかける。	炭酸ガス省エネ	全部署
LED照明の導入	工場内の照明電球をLEDに変更。	炭酸ガス省エネ	全部署
天然ガスヒートポンプ式空調設備	クリーンな天然ガスを利用し、冷暖房時のエンジン余力で約2～4kW/台の発電した電気を建物に送る。(コージェネレーション)	炭酸ガス省エネ	本社
エアコン設定温度	エアコンの温度設定は集中管理リモコンにより夏季26℃以上/冬季20℃に設定する。	炭酸ガス省エネ	全部署
エアコン管理	定期的エアコンフィルターを清掃	炭酸ガス省エネ	全部署
熱線反射フィルム	事務所のガラスに断熱フィルムを貼り付け、空調効率を上げる。	炭酸ガス省エネ	本社
ロールカーテンの取付	熱線反射ガラスとともに、さらに空調効率を高めるためロールカーテンを設置。	炭酸ガス省エネ	本社
エレベーター・自動ドアの休日稼働停止	設定により休日においてはエレベーター及び自動ドアの稼働を休止し、無駄な電力使用量を削減する。	炭酸ガス省エネ	本社
設備機器の点検・補修	随時点検及び補修を行うことで、使用電力の軽減を計る	炭酸ガス省エネ	全部署
電力のクリーンエネルギー化	天然ガスやバイオマス、風力などによる発電を利用した再生可能エネルギー電力を導入。	炭酸ガス省エネ	全部署
ゴミの分別徹底	事務所内から排出される廃棄物を可燃ゴミ/空き缶/再生古紙に分別する。	廃棄物	全部署
廃プラスチック類の見直し	廃プラスチック類を古紙の圧縮梱包機を使用して圧縮し、リサイクル処理に回す。選別場において廃プラスチック類専用のカゴを設置し回収に努める。	廃棄物	全部署

取組	具体的な実施手順		
定期的自主点検	タイヤ空気圧等の定期的自主点検を行う。	炭酸ガス省エネ	全部署
エコドライブの推進	アイドリングストップなど。	炭酸ガス省エネ	全部署
電気リフトの導入	使用可能な範囲において、大気汚染に影響するガスを排出するディーゼルリフトから電気リフトへ切り替えていく。	炭酸ガス省エネ	全部署
リフトの空ふかし禁止	リフト運転の際、必要以上にアクセルを吹かさない。	炭酸ガス省エネ	全部署
回収ルートの効率化	事前にパソコンで最短時間を検索し、回収ルートを決める	炭酸ガス省エネ	全部署
屋上緑化	屋上の一部に緑化スペースを設け、ビル内への断熱効果を高めるとともにヒートアイランド防止に貢献する。	炭酸ガス省エネ	本社
公共交通機関の積極利用	遠距離出張時にはできるだけ鉄道等の交通機関を使用することを奨励する。	炭酸ガス省エネ	全部署
地域清掃活動	定期的に事業所周辺地域の清掃活動を行う。	地域貢献	全部署
集団回収	集合住宅や学校等において集団回収を呼びかけ、地域に対し資源のリサイクル意識の向上を図る。	地域貢献	全部署
大正区内の企業回収における福祉寄付活動	大正区内の企業に紙のリサイクルを呼びかけ、回収した古紙の売上の一部を大正区の安全活動を行っている「子供見守り隊」や「子供110番の家」の活動資金に寄付する。	地域貢献	本社
工場見学の実施	事業所近隣の小中学生や婦人会などの地域住民の方々・団体向けにリサイクルの現場を知ることが出来る工場見学を受け入れる。(新型コロナ禍により一時休止)	地域貢献	本社
ゴミ減らし隊	事業者等から排出される廃棄物の内、再生資源としてリサイクル可能な物を有価物として買い取れるよう分別等のアドバイスを行う。	地域貢献	本社
出前授業	小学校・中学校・高等学校の生徒を対象に、紙を含めたリサイクルの授業を学校の教室に赴き実施。牛乳パックからの郵便ハガキの製作体験なども行う。(新型コロナ禍により一時休止)	地域貢献	本社
エコぼすと	本社のある大正区内に無人の古紙等再生可能な資源物回収施設を設置し、地域のリサイクル意識啓蒙を促進する。	地域貢献	本社
グリーンマーク/エコマーク商品の購入	事業活動の中で消費される物品について、環境負荷の少ないグリーンマーク/エコマーク商品を優先的に購入する。	その他	全部署
環境関連認証の取得	エコマーク・森林認証(FSC認証)を取得	その他	再生パルプ製造部門
グラシン紙窓付封筒の導入	分別の必要のないグラシン紙窓付封筒を使用し、取引先等に対しても資源のリサイクル意識の向上に取組む。	その他	本社
リサイクル封筒	高槻事業部で製造した再生パルプより作られた封筒を使用	その他	本社 再生パルプ製造部門
難処理古紙のリサイクル	溶解処理施設にリジェクトソーターを設置して、従来リサイクル処理できなかった難処理古紙に対応	その他	再生パルプ製造部門
環境商品のPR	高槻事業部内にて再生パルプ販売先の製品を陳列し、来場者へ環境商品をPR。リサイクルの重要性について啓蒙啓発活動を行う。	その他	再生パルプ製造部門
CO2排出量レポートサービス	古紙等の回収から弊社工場での加工、製紙会社へ原料として搬入するまでの過程で発生するCO2排出量を毎月レポートという形で報告します。	その他	本社

7)環境目標の実績

※扱い数量による原単位評価

(1)古紙部門 環境データ取纏表 (2023年)

※1 廃紙を利用 ※2 某印刷工場内での作業所で、子メーター設置が不可能なため。

	電力	ガス	軽油	ガソリン	灯油	水資源	廃棄物	PPC用紙	ヤード売上高	ヤード扱い数量
※単位	kWh	m ³	L	L	L	m ³	kg	kg	千円	t
本社	277810	13624	185386	3653		1176	82570	940	972342	38776
鳥飼	113467	137	38124	2147	573	245	11840	60	406323	13683
南港	16951		5768	0		166	1240	40	0	35367
東大阪	121513	91	40281	210		555	41870	100	539744	21797
京都	164453		63543	2777	260	624	11770	140	438559	16615
東京	69141	20	36010	1617	171	155	6620	80	275457	10684
神奈川	86280	0	69226	1859		396	8350	60	321581	15706
名古屋 ※2	メーター無し			0		メーター無し	590	40	69735	1842
北九州	131817	18.4	114163	1590		198	87460	860	419956	18358
福岡	113151	0.0	72657	454		井戸水	12830	149	232308	11325
唐津	124502	4.1	82695	2742		井戸水	8920	120	247322	11041
平戸	35625		75188	3647		157	18070	60	151788	8041
諫早	17346		55224	3088		140	5570	0	75053	4420
熊本	104166		65967	2473		128	13800	140	238381	10724
鹿児島	73824	0	52777	877		111	23820	80	204078	10048
合計	1450046	13895	957009	27135	1004	4051	335320	2869	4592627	228427

CO2排出量	37949	31112	2469082	62952	2499					
--------	-------	-------	---------	-------	------	--	--	--	--	--

※単位 kg-CO2 CO2排出係数:業種別ガイドライン(産廃業者向け)2017年版に準ずる

※電力は複数の電力供給会社を採用し、各電力会社の排出係数(令和2年度)にて事業所ごとに算出し合計を出しています。 ※ガス:本社のみ都市ガス

合計CO2排出量 **2,603,593 kg-CO2** 扱い数量比(原単位) **11.40 kg-CO2/扱い数量**

基準年度との比較 (環境目標値:基準年度比1%減 扱い数量比) ※化石燃料投入量 4.37 基準年度 4.13

	電力	ガス	軽油	ガソリン	灯油	水資源	廃棄物	PPC用紙	ヤード売上高	ヤード扱い数量
※単位	kWh/t	m ³ /t	L/t	L/t	L/t	m ³ /t	kg/t	kg/t	千円	t
基準年度	6.647	0.067	3.933	0.126	0.0047	0.018	1.519	0.012	4097663	223139
環境目標値	6.581	0.067	3.894	0.125	0.0047	0.017	1.503	0.012		
2023年度	6.348	0.061	4.190	0.119	0.0044	0.018	1.468	0.013	4592627	228427
対比值	95%	90%	107%	94%	93%	101%	97%	103%		
評価	◎	◎	△	◎	△	△	◎	△		

CO2排出量 CO2排出係数:業種別ガイドライン(産廃業者向け)2017年版に準ずる

基準年度 合計CO2排出量 2959893 kg-CO2 ※ヤード扱い数量比(原単位) 13.26 kg-CO2/t

2023年度 合計CO2排出量 2603593 kg-CO2 ※ヤード扱い数量比(原単位) 11.40 kg-CO2/t

排出総量対比 **88%** 扱い数量比(原単位) **86%** ◎

※各事業所の電力会社CO2排出係数(調整後)

本社・鳥飼・南港:0kg-CO2/kWh(関西電力再エネプラン 令和3年度)

東大阪・京都・東京・神奈川:0kg-CO2/kWh(出光GPプレミアムゼロP 令和3年度)

北九州・福岡・唐津・平戸・諫早・熊本・鹿児島:0.389kg-CO2/kWh(九州電力 令和3年度)

※北九州・福岡・唐津・平戸・諫早・熊本・鹿児島は2022年12月よりCO2フリー電力に切り替え済

【評価の指標】

◎:目標達成

○:削減できたが目標未達成

△:目標未達成(基準年度比110%未満)

×:目標未達成(基準年度比110%以上)

(2)古紙部門 基準環境データ (基準年度:2022年) ※1 廃紙を利用 ※2 某印刷工場内での作業所で、子メーター設置が不可能なため。

	電力	ガス	軽油	ガソリン	灯油	水資源	廃棄物	PPC用紙	ヤード 売上高	ヤード 扱い数量
※単位	kWh	m ³	L	L	L	m ³	kg	kg	千円	t
本社	270914	14732	150378	3760		1275	78330	900	754867	37432
鳥飼	119173	156	32352	2162	735	274	11940	60	381783	13596
南港	18766		3721	0		151	840	40	0	22283
東大阪	144867	95	35497	124		542	42690	80	467337	21991
京都	156085		60386	3204	150	561	11950	140	369994	17052
東京	73426	22	35701	2194	164	161	5630	80	268557	12450
神奈川	83299	0	65888	1644		254	8140	40	311966	14699
名古屋	※2			480		※2	710	40	49170	1853
北九州	135234	24	104247	1647		207	83110	800	379048	19445
福岡	110674	0	73684	392		井戸水	11700	157	257408	12329
唐津	130205	5	79471	2019		井戸水	9840	110	221620	11870
平戸	41713		75937	3595		129	22290	60	156118	11216
諫早	16613		43786	2714		115	4360	0	71391	4152
熊本	101363		62554	3471		142	12290	140	202088	11268
鹿児島	80951		54038	787		112	35045	80	206316	11503
合計	1483283	15035	877641	28194	1049	3923	338865	2727	4097663	223139
CO2排出量	593858	33700	2264313	65410	2612					

※単位 kg-CO2 CO2排出係数:業種別ガイドライン(産廃業者向け)2017年版に準ずる ※ガス:本社のみ都市ガス

※電力は各電力会社の排出係数を採用(令和2年度) ※本社・鳥飼・東大阪・京都・東京・神奈川は2022年7月よりCO2フリー電力を導入済み

合計CO2排出量 2,959,893 kg-CO2 扱い数量比(原単位) 13 kg-CO2/t

(3)再生パルプ部門環境データ取纏表 (2023年) ※1 廃紙を

	電力	ガス	軽油	ガソリン	水資源	廃棄物	スラッジ	PPC用紙	売上高	生産高
※単位	kWh	m ³	L	L	m ³	kg	kg	kg	千円	t
高槻事業部	3120465	300	21760	5693	173688	4040	842210	※1	393910	8437
CO2排出量	1647606	1863	56141	13208						

基準年度との比較 (環境目標値:基準年度比1%減 扱い数量比) ※化石燃料投入量 4.37 基準年度 4.13

	電力	ガス	軽油	ガソリン	灯油	水資源	廃棄物	スラッジ	PPC用紙	売上高	生産高
※単位	kWh/t	m ³ /t	L/t	L/t	L/t	m ³ /t	kg/t	kg/t	kg/t	千円	t
基準年度	423.101	0.040	2.446	0.673		23.733	0.546	97.463		303650	7417
環境目標値	418.870	0.040	2.422	0.666		23.496	0.541	96.488			
2023年度	369.852	0.036	2.579	0.675		20.586	0.479	99.823		393910	8437
対比值	87%	88%	105%	100%		101%	97%	102%			
評価	◎	◎	△	△		△	◎	△			

高槻:0.528kg-CO2/kWh(ENEOS 令和3年度)

CO2排出量	CO2排出係数:業種別ガイドライン(産廃業者向け)2017年版に準ずる										
基準年度	合計CO2排出量	1566553	kg-CO2	※ヤード扱い数量比(原単位)	211	kg-CO2/t					
2023年度	合計CO2排出量	1718818	kg-CO2	※ヤード扱い数量比(原単位)	204	kg-CO2/t					
	排出総量対比	110%		扱い数量比(原単位)	96%		◎				

(4)再生パルプ部門基準環境データ (基準年度:2022年) ※1 廃紙を利用

	電力	ガス	軽油	ガソリン	水資源	廃棄物	スラッジ	PPC用紙	売上高	売上高
※単位	kWh	m ³	L	L	m ³	kg	kg	kg	千円	t
高槻事業部	3138125	300	18142	4993	176030	4050	722880	※1	303650	7417
CO2排出量	1506300	1863	46807	11583						

(5) 全社部門環境データ取纏表 (2023年)

基準年度との比較 (環境目標値: 基準年度比1%減 扱い数量比)

※化石燃料投入量

8.75 基準年度

8.26

	電力	ガス	軽油	ガソリン	灯油	水資源	廃棄物	スラッジ	PPC用紙	ヤード 売上高	ヤード 扱い数量
※単位	kWh/t	m ³ /t	L/t	L/t	L/t	m ³ /t	kg/t	kg/t	kg/t	千円	t
基準年度	429.748	0.108	6.379	0.800	0.005	23.751	2.065	97.463	0.012	4401313	230556
環境目標値	425.451	0.107	6.315	0.792	0.0047	0.017	1.503	96.488	0.012		
2023年度	376.200	0.096	6.769	0.794	0.004	20.604	1.947	99.823	0.013	4986537	236864
対比值	88%	89%	106%	99%	93%	101%	97%	102%	103%		
評価	◎	◎	△	◎	◎	△	◎	△	△		

CO2排出量 CO2排出係数: 業種別ガイドライン(産廃業者向け)2017年版に準ずる

基準年度	合計CO2排出量	4526446	kg-CO2	※ヤード扱い数量比(原単位)	224.48	kg-CO2/t
2023年度	合計CO2排出量	4322411	kg-CO2	※ヤード扱い数量比(原単位)	215.12	kg-CO2/t
	排出総量対比	95%		扱い数量比(原単位)	96%	◎

※各事業所の電力会社CO2排出係数(調整後)

本社・鳥飼・南港: 0kg-CO2/kWh(関西電力再エネプラン 令和3年度)

高槻: 0.528kg-CO2/kWh(ENEOS 令和3年度)

東大阪・京都・東京・神奈川: 0kg-CO2/kWh(出光GPプレミアムゼロP 令和3年度)

北九州・福岡・唐津・平戸・諫早・熊本・鹿児島: 0.389kg-CO2/kWh(九州電力 令和3年度)

※北九州・福岡・唐津・平戸・諫早・熊本・鹿児島は2022年12月よりCO2フリー電力に切り替え済

【評価の指標】

◎: 目標達成

○: 削減できたが目標未達成

△: 目標未達成(基準年度比110%未満)

×: 目標未達成(基準年度比110%以上)

事業所別の削減度 扱い数量比(増加はマイナス値)

	電力	ガス	軽油	ガソリン	灯油	水資源	廃棄物	スラッジ	PPC用紙
本社	1%	11%	-19%	6%		11%	-2%		-1%
高槻事業部	13%	12%	-5%	0%		13%	12%	-2%	※1
鳥飼	5%	13%	-17%	1%	23%	11%	1%		1%
南港	43%		2%			31%	7%		37%
東大阪	15%	2%	-14%	-71%		-3%	1%		-26%
京都	-8%		-8%	11%	-78%	-14%	-1%		-3%
東京	-10%	-6%	-18%	14%	-22%	-12%	-37%		-17%
神奈川	3%		2%	-6%		-46%	4%		-40%
名古屋 ※2	メーター無し			100%		メーター無し	16%		-1%
北九州	-3%	20%	-16%	-2%		-1%	-11%		-14%
福岡	-11%		-7%	-26%		井戸水	-19%		-3%
唐津	-3%	17%	-12%	-46%		井戸水	3%		-17%
平戸	-19%		-38%	-41%		-70%	-13%		-39%
諫早	2%		-18%	-7%		-14%	-20%		0%
熊本	-8%		-11%	25%		5%	-18%		-5%
鹿児島	-4%		-12%	-28%		-13%	-14%		-14%

【目標: 2022年度基準で1%削減】

※1 廃紙を利用のため購入実績が無く評価不能 ※2 某印刷工場内での作業所で、子メーター設置が不可能なため。

事業所別の削減度評価

◎:目標達成 ○:削減できたが目標には未達
 △:基準年度より同値または増加(110%未満) ×:基準年度より増加(110%以上)

	電力	ガス	軽油	ガソリン	灯油	水資源	廃棄物	スラッジ	PPC用紙
本社	◎	◎	×	◎	△	◎	△	△	△
高槻事業部	◎	◎	△	○	△	◎	◎	△	※1
鳥飼	◎	◎	×	◎	◎	◎	◎	△	◎
南港	◎	△	◎	△	△	◎	◎	△	◎
東大阪	◎	◎	×	×	△	△	◎	△	×
京都	△	△	△	◎	×	×	△	△	△
東京	×	△	×	◎	×	×	×	△	×
神奈川	◎	△	◎	△	△	×	◎	△	×
名古屋 ※2	メーター無し	△	△	◎	△	メーター無し	◎	△	△
北九州	△	◎	×	△	△	△	×	△	×
福岡	×	△	△	×	△	井戸水	×	△	△
唐津	△	◎	×	×	△	井戸水	◎	△	×
平戸	×	△	×	×	△	×	×	△	×
諫早	◎	△	×	△	△	×	×	△	△
熊本	△	△	×	◎	△	◎	×	△	△
鹿児島	△	△	×	×	△	×	×	△	×

【目標:2022年度基準で1%削減】

※1 廃紙を利用のため購入実績が無く評価不能 ※2 某印刷工場内での作業所で、子メーター設置が不可能なため。

8) 当年度(2023年度)の取組状況の評価

省資源 (コピー用紙)	使用状況及び購入状況を精査したところ、使用状況に大きな問題はなく、購入のタイミングなども影響していると思われる。引き続き使用量削減に努める。
排水	平戸リサイクルセンターと諫早リサイクルセンターで構内での漏水があったこともあり、一時的に使用量が増加してしまった。漏水を起こした箇所は修繕対応済み。引き続き使用量削減に努める。
炭酸ガス	電力について、古紙部門では2022年12月に九州地区が全て再エネ100%プランに変更したため、CO2排出量の削減に大きく貢献した。反面、軽油使用量は本社にて同業者の商圏及び車両を引継いだことなどもあり総車両数は246台から267台への増加したことが総量の増加につながったと考えられる。今後回収効率の向上などを図り、使用量の削減に努めていく。
廃棄物	廃棄物については順調に削減できている。引き続きリサイクル率の向上などの取り組みを進める。
地域社会	一般の方へのエコぽすによる古紙リサイクルの推進とともに、地域イベントを通して引き続き地域住民の方々と交流を深める取り組みを行っていく。

9)環境関連法規への違反、訴訟等の有無

チェック担当 

下記の法規につき自主的にチェックしたところ、弊社本社において過去5年間以上重大な法規違反はありません。また、これに係る訴訟もありません。

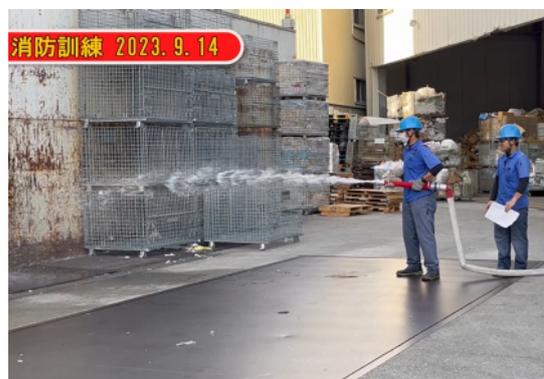
適用法令	関連内容
大気汚染防止法	自動車排ガスの排出抑制
自動車NOx・PM法	自動車排出窒素酸化物の排出抑制措置
騒音規制法	機械類の騒音値
振動規制法	機械類の振動値
悪臭防止法	保管廃棄物の適正な管理
浄化槽法	浄化槽の保守・点検・清掃
水質汚濁防止法	水質の保全・生活廃水対策の実施・協力
瀬戸内海環境保全特別措置法	//
廃棄物処理法、その他地方公共団体で定める条例等	廃棄物の減量化・適正な処理等
再生資源の利用の促進に関する法律	
家電リサイクル法	
容器包装リサイクル法	
食品リサイクル法	
PCB特別措置法	
バーゼル法	特定有害廃棄物の輸出の規制
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの排出を抑制し地球温暖化を防止
エネルギーの使用の合理化に関する法律	エネルギーの使用の合理化
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理・点検
水銀汚染防止法	水銀使用製品の使用管理・廃棄に関する規制
消防法	法令に適合する消防設備の定期的な点検・報告

10)環境教育・緊急事態への対応

本年度実施済みの環境教育については下記の通りです。

教育事項	教育内容
環境活動の必要性、環境経営について	代表者より管理者等に向けて社員一同で環境活動に取り組む目的、意義を説明
EA21活動の概要、実施における教育	全社への認証範囲拡大にあたり、EA21認証の概要、取組内容の説明
緊急事態における訓練	火災等の環境に大きな影響を及ぼす緊急事態における対処について訓練を行う

※消火訓練の様相(消防署立ち合い)



なお当部門では環境上想定される緊急事態について対応マニュアルを定め、災害リスクの低減に努めています。

11) 廃棄物関係登録及び許可取得状況

1、廃棄物再生事業者登録 ※許可要件ではない。

管轄	番号	種類
大阪府	第39号	古紙の再生
京都府	第56号	古紙の再生
福岡県	第27号	古紙の再生
	第28号	古紙の再生
佐賀県	佐賀県指令15廃第20号	紙くず
熊本県	再生第57号	古紙
鹿児島県	H27-01	古紙の再生に適する圧縮・梱包

2、産業廃棄物収集運搬業許可

管轄	番号	許可年月日	有効期限	許可品目
大阪府	2700037595	2013年11月13日	2023年11月3日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類、動植物性残渣
大阪市	第6610037595号	2016年5月2日	2026年4月30日	ゴムくず、ガラスくず、がれき類、紙くず、木くず、繊維くず、廃プラスチック類、汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、金属くず(以上、積替・保管含む)
京都府	2610037595	2020年7月22日	2025年7月21日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
兵庫県	第02808037595号	2016年12月19日	2026年12月18日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
奈良県	第02900037595号	2023年3月24日	2028年3月23日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
和歌山県	第03000037595号	2019年9月4日	2024年9月3日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
滋賀県	第02501037595号	2019年10月16日	2024年10月15日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
神奈川県	1402037595	2022年8月30日	2027年7月11日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、がれき類
山口県	第03508037595号	2020年6月22日	2025年6月21日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類
福岡県	4000037595	2016年1月19日	2026年1月18日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
佐賀県	4105037595	2016年7月10日	2026年7月9日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類(以上、積替・保管含む)
長崎県	第04200037595号	2009年2月19日	2029年2月18日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
熊本県	第04305037595号	2009年11月2日	2024年11月1日	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず等、がれき類
鹿児島県	第04606037595号	2020年3月6日	2025年3月5日	汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

※産業廃棄物処理事業計画の概要(事業主体は古紙の再生であり、産業廃棄物の処理は極少量の取扱い)

建設現場より発生する混合産業廃棄物を収集し、中間処理業者へ搬入する。

印刷業者より発生する廃インク缶及びその内容物である油性若しくは水性インク液を収集し、中間処理業者へ搬入する。

3、施設等の状況

(1) 車両関係

事業所	貨物車	塵芥車	営業車	フォークリフト	合計
本社	14台	14台	5台	8台	41台
高槻事業部	5台	0台	1台	3台	9台
鳥飼事業所	4台	3台	3台	8台	18台
南港ヤード	0台	0台	0台	3台	3台
東大阪事業所	5台	2台	1台	4台	12台
京都事業所	12台	6台	1台	3台	22台
東京事業所	5台	3台	1台	6台	15台
神奈川事業所	5台	8台	2台	5台	20台
北九州事業所	6台	12台	3台	5台	26台
グリーンセービング福岡	9台	9台	3台	4台	25台
唐津リサイクルセンター	6台	7台	2台	5台	20台
平戸リサイクルセンター	2台	8台	0台	2台	12台
諫早リサイクルセンター	3台	6台	0台	2台	11台
熊本リサイクルセンター	7台	7台	2台	2台	18台
名古屋営業所	0台	0台	0台	3台	3台
鹿児島事業所	4台	5台	1台	2台	12台
合計	87台	90台	25台	65台	267台

前年度：246台

(2) 機械装置関係

機械名	保有台数	備考
古紙自動圧縮梱包機	18台	各事業所1台(高槻事業部を除く。本社・鳥飼・名古屋は各2台)
トラックスケール	17台	各事業所1台(本社は2台)

(3) 再生パルプ製造部門機械装置関係(高槻事業部)

ハイドラパルパ、原料溶解ター、除塵スクリーン、MTフローター、漂白ター、抄紙機、排水処理沈殿槽

(4) 産業廃棄物積み替え保管施設

施設住所	許可面積	保管上限量	積上可能高さ
大阪市大正区三軒家東2-9-10	119m ²	68m ³	3.6m
京都府八幡市岩田六ノ坪59-1	2219.82m ²	12.24m ³	2.4m
佐賀県唐津市梨川内字河内山1079-106	9.6m ²	11.4m ³	2.85m

(5) 産業廃棄物中間処理施設

施設住所	処理能力及び許可品目	処分業許可番号等
福岡県糟屋郡新宮町大字立花口字猿渡404-2	減容(0.212t/日)：廃プラスチック類(廃発泡スチロールに限る) 圧縮(52t/日)：廃プラスチック類	第04020037595号 許可年月日：令和元年7月22日 有効年月日：令和6年7月21日
鹿児島県鹿児島市東開町字東開12-5	減容(0.16t/日)：廃プラスチック類(廃発泡スチロールに限る) 圧縮(264.32t/日)：廃プラスチック類	第08222037595号 許可年月日：令和4年10月4日 有効年月日：令和9年10月3日

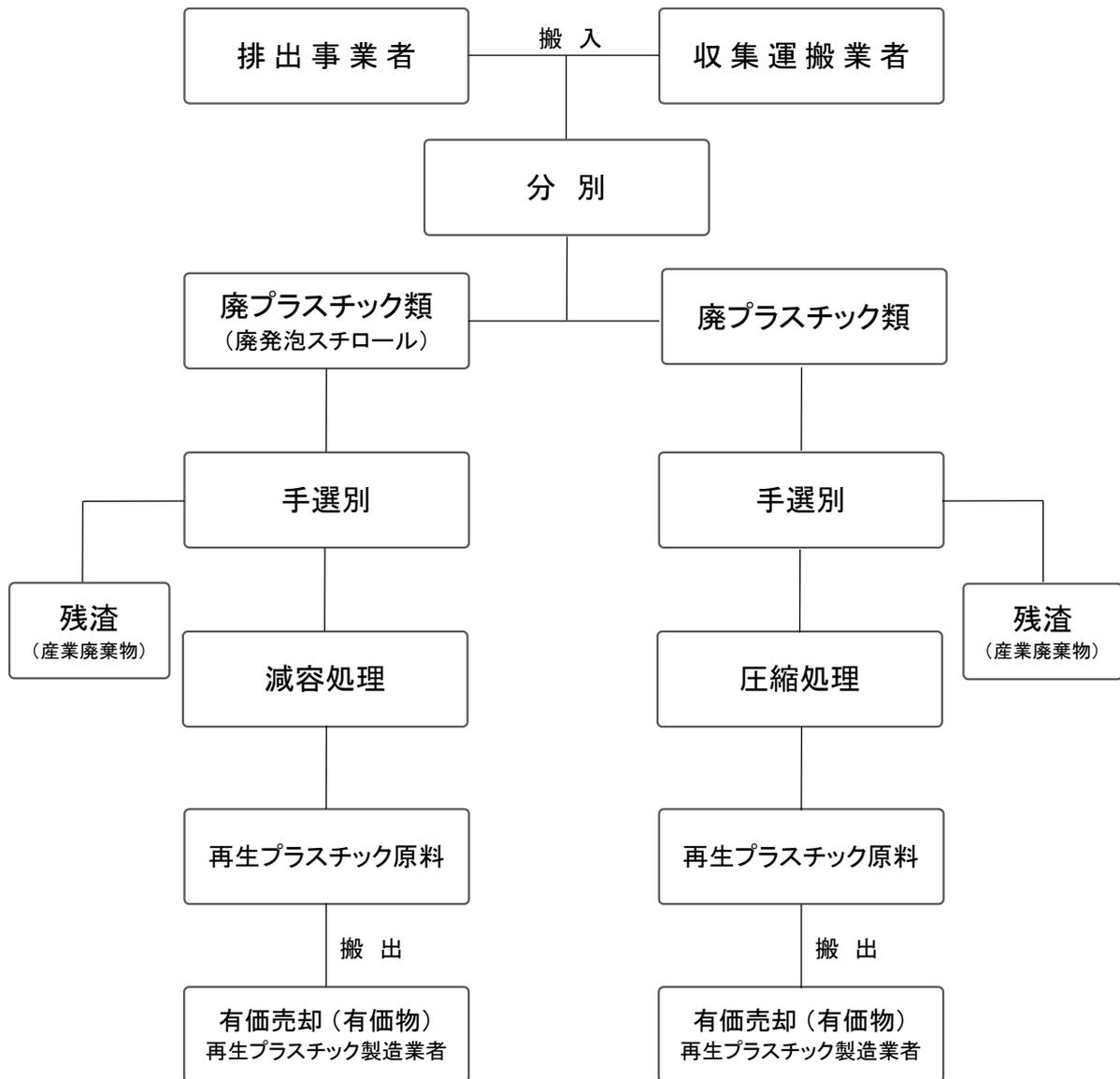
※処理フローは別紙に記載

(6) 産業廃棄物収集運搬量・処分量

1) 企業情報 事業規模の欄に記載

(7) 産業廃棄物処理料金

個別案件の見積によります。



12)SDGsの取り組み

大和紙料では以下の取り組みを進めています。

【地域安全寄付活動】

大阪本社において地域の子ども達の安全のため、地元大阪市大正区内の企業様のご協力のもと、回収した古紙1kgあたり1円を大阪市に寄付し、地域の子ども達の安全を守る「子供見守り隊」や「子ども110番の家」の活動資金に役立てていただいています。



【クローズドリサイクル】

排出事業者が回収される古いカタログ等を原材料に、新たな製品としてリサイクルするループの中で、古紙回収・古紙パルプ製造の過程に携わり、資源循環に貢献しております。



【サプライチェーン排出量算定】

弊社のあらゆる事業活動に関する二酸化炭素排出量を把握し、排出量の削減に努めます。



【当社の温室効果ガスの排出量(2023年度)】

- ・Scope1(直接排出量): 2,632t-CO2e
- ・Scope2(間接排出量): 1,545t-CO2e
- ・Scope3(その他間接排出量): 216,118t-CO2e



【カフェテックスの開発】

新たな環境配慮型素材としてコーヒーフィルターのエンド材を用い、綿糸に相当する引張強度を実現した「カフェテックス」を開発しました。綿やレーヨンと同様にセルロース繊維のため反応染料などで染めることもでき、古紙を原料とすることで廃棄物をアップサイクルとした環境配慮素材として打ち出すこともできます。



13)代表者による全体の評価と見直し・指示

2023年度はコロナ禍より回復がみられるものの、紙に関しては新聞や印刷物、オフィス古紙などの数量減の影響が大きいものとなっている。既存取引先でも排出される古紙の数量減が進む中、当社は無人古紙回収施設「エコぼすと」による一般家庭からの掘り起こしや、同業者とのM&Aにより数量増を目指している。

環境への取り組み面では2022年12月に九州地区の高圧電気供給が再エネ100%電力に切り替わり、全古紙部門で使用する電力が再エネ100%となった。これにより電力に掛かるCO2排出量を大きく削減することができている。その他高槻事業部ではコーヒーフィルターの端材を原料とした再生パルプ100%の紙糸「カフェテックス」を開発し、シューズ製造会社と共同開発でカフェテックスをアップパー素材に使用したスニーカーを開発・販売を開始した。当社では引き続き古紙リサイクルの事業を通じて環境活動に貢献していきます。

2023年10月31日

